

ネオマレルミンTR錠6mgの非臨床試験  
 -ビーグル犬における食後投与の血中濃度推移-

ネオマレルミンTR錠6mgは、*d*-クロルフェニラミンマレイン酸塩を主薬とする抗ヒスタミン剤である。また、本製剤は、特殊コーティングを施した内核錠とそれを包む外層錠とからなり、外層錠と内核錠の作用発現時間が異なる様設計されているため、作用持続時間が長い製剤である。

ネオマレルミンTR錠6mgのイヌにおける血清中未変化体濃度推移を、ポララミン復効錠6mg(ジェリング・プラウ株式会社製)、及び普通錠であるポララミン錠2mg(ジェリング・プラウ株式会社製)と比較した。

試験方法及び結果

イヌ6匹に、食後、錠剤各1錠を経口投与し、以後経時的に採血した。

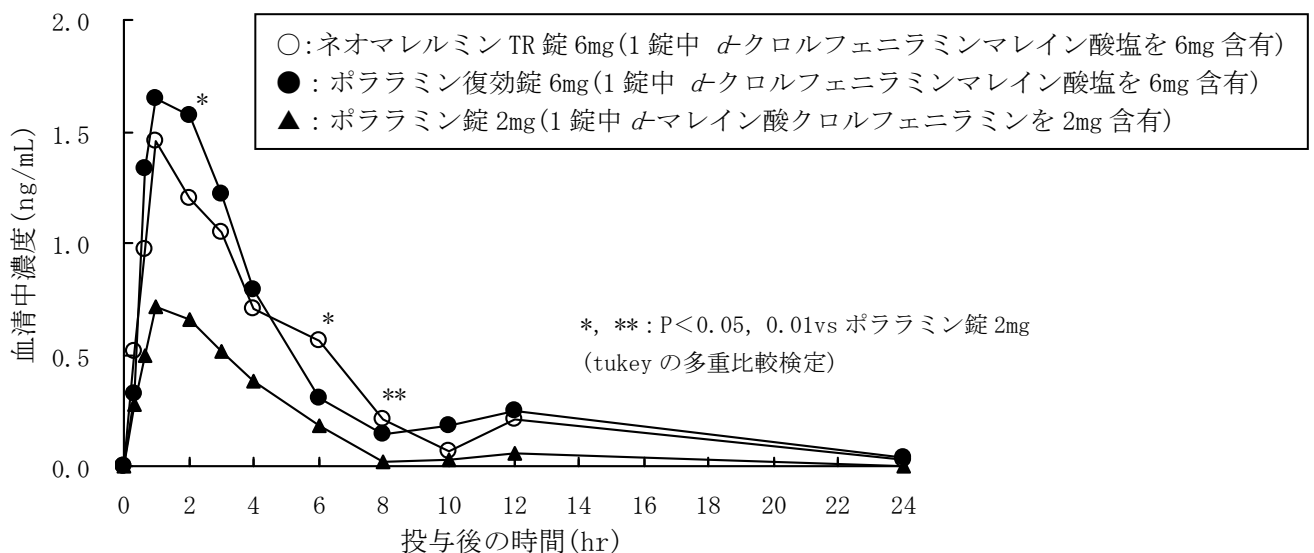


図 平均血清中濃度推移(n=6, 平均)

表 薬物速度論的パラメータ(n=6, 平均±標準偏差)

	Tmax(hr)	Cmax(ng/mL)	T <sub>1/2</sub> (hr)	AUC <sub>0-24</sub> (ng·hr/mL)
ネオマレルミン TR 錠 6mg	1.50±0.84	1.74±0.38	3.30±2.67	8.11±1.08
ポララミン復効錠 6mg	1.22±0.89	1.86±0.79	5.73±5.42	8.81±3.79
ポララミン錠 2mg	3.11±4.39	0.86±0.41	2.07±0.86	3.29±1.39

Tmax: 最高血清中濃度到達時間, Cmax: 最高血清中濃度, T<sub>1/2</sub>: 消失半減期  
 AUC<sub>0-24</sub>: 0~24時間の血清中濃度-時間曲線下面積

ネオマレルミンTR錠6mgとポララミン復効錠6mgは、投与後約1.2~1.5時間で最高血清中濃度に達し、以後、8~10時間後にかけて徐々に減少するが、投与後12時間で再度上昇する二峰性の推移を示した。一方、普通錠であるポララミン錠2mgは、最高血清中濃度に達した後、以後徐々に減少する推移を示した。